

福山町郷土誌

福
山
町

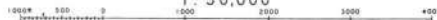
[illegible]

編纂印刷 福岡市薬院大通り二丁目五二 西日本地図出版株式会社

鹿児島県姶良郡福山町

建設省国土地理院長承認

1:50,000



昭和五十三年九月

町制五十周年記念

福山町郷土誌



福
山
町



3代村長
黒丸市助



2代村長
松下織之介



1代村長
厚地政徳



6代村長
河原定利



5代村長
西大海



4代村長
厚地政清

福山の歴代
村長・町長



8代村長
中尾直一郎



7代村長
中島貞広



13・14代村長
松 下 兼 精



10・11代村長
厚 地 金 次 郎



9・12代村長
中 尾 親 記



4・5代町長
中 尾 廉



3代町長
松 下 茂 一



15代村長・12代町長
入 来 太 兵 衛



8・11・12代町長
平 原 一 熊



7代町長
田 中 省 吾



6・9・10・13代町長
豊 平 金 二



福山町長
松 下 昌 宜



収 入 役
二 間 瀬 行 雄



助 役
中 村 新 太 郎



福山町議会議長
大 王 久 雄



福山町議会副議長
大 野 盛 男



町議会議員

有村篤義	山下久治	井料輝夫	川東清之助	菊池三男	久田安一	豊平三盛	松下昭	(後列)	(前列)	松下栄盛
砂田光則	城野安二	大野盛男	大王久雄	久米村信一						



町農業委員会(昭和24年)

平原一熊	宇都敬次	坂元猛	大王久雄	久田安二	福丸岩吉	谷山祐吉	宇都又三	口ノ町省三	井料弘川畑純雄	橋口政則	米沢盛弘	山形虎助	砂田正雄	愛甲重志	二間瀬行雄	井之口敬次	重留タエ	山下重義	重留タエ	小河源福造	廣瀬四女子	濱田善五郎	町農業委員会(昭和24年)
------	------	-----	------	------	------	------	------	-------	---------	------	------	------	------	------	-------	-------	------	------	------	-------	-------	-------	---------------



福 山 町 役 場



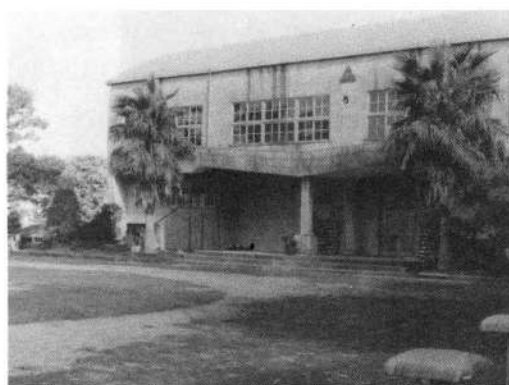
福 山 町 中 央 公 民 館



町立福山小学校



福山小学校開校百周年碑



町立福山中学校体育館



県立福山高等学校



岩崎行親先生胸像



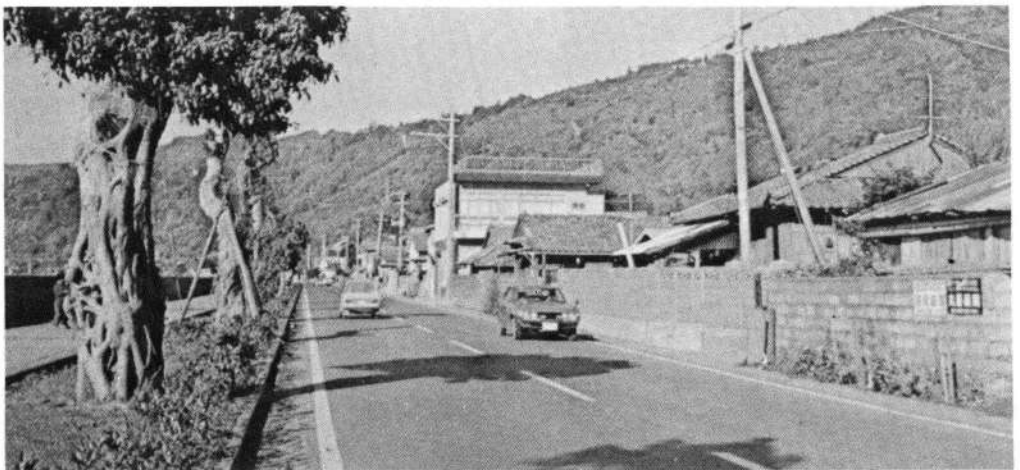
若 尊 遊 歩 道



港の風景（福山農協前・大正14年）



港 の 風 景（昭和53年）



国 道 2 2 0 号 線



宮 浦 神 社



小 廻 造 林 碑



福 山 酢 の 仕 込 み



磯 脇 運 動 公 園



農 協 選 果 場



町 議 会



選 挙 開 票



給食センター調理室



給 食



福 山 港



海 岸 の 町 並



商 家 造 り (小廻)



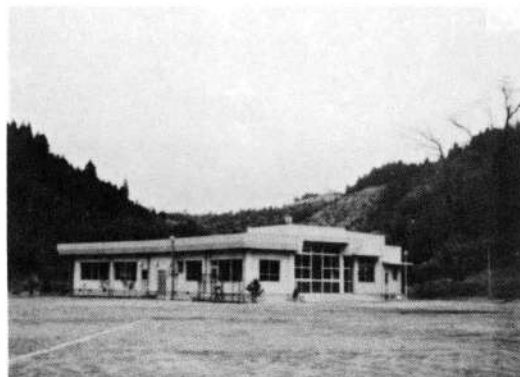
海上自衛隊鹿児島試験所



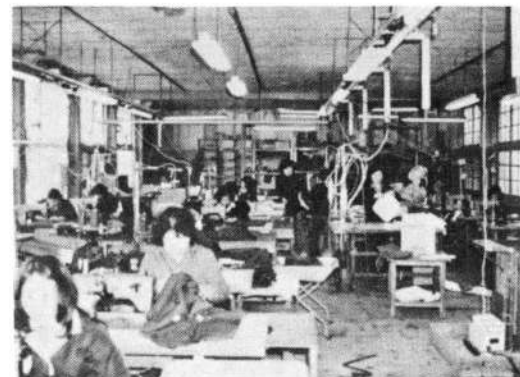
佳例川小設立百年記念碑



佳 例 川 小 学 校



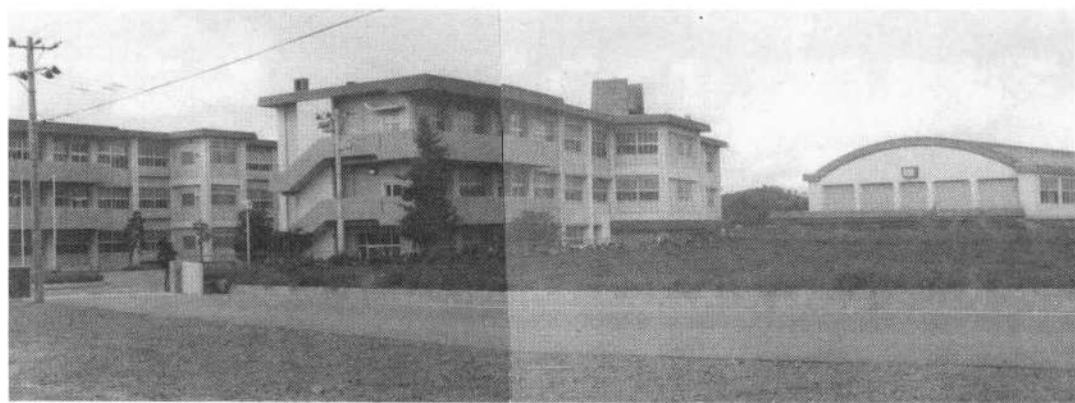
佳例川コミュニティセンター



縫 製 工 場 (旧佳例川小跡)



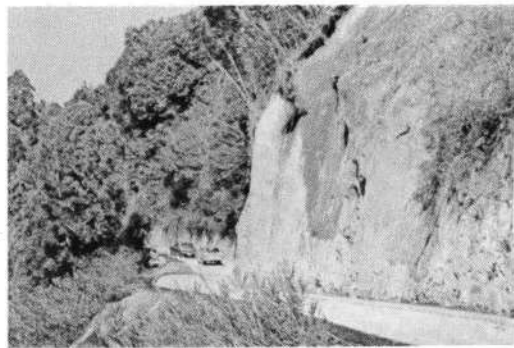
福山町牧之原老人憩の家



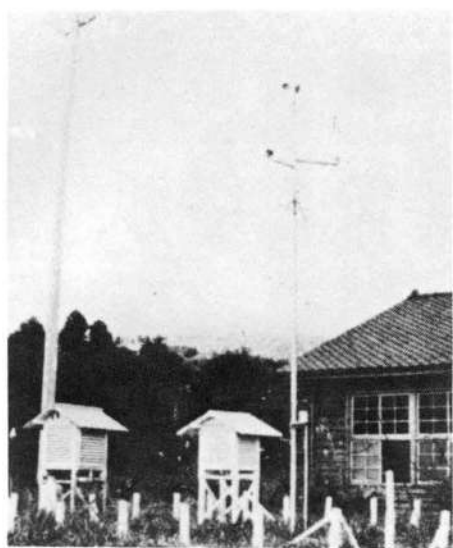
町立牧之原高等学校



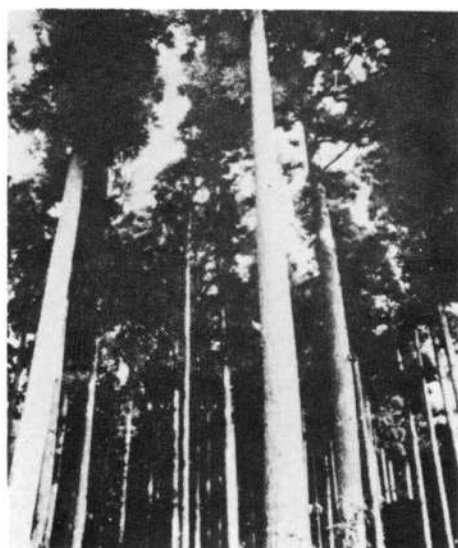
桜島カントリークラブ (ゴルフ場)



シラス土壤地帯



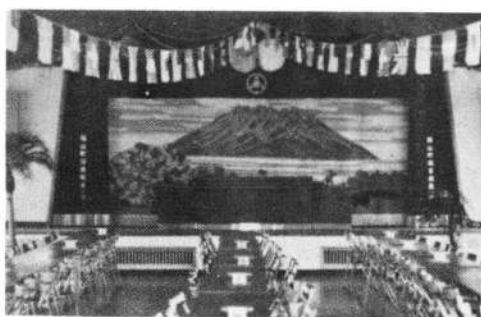
牧之原農業氣象觀測所



杉 山（佳例川）



町 民 体 育 祭



町中央公民館大ホール



町立牧之原小学校



町立牧之原中学校



編集委員
協力委員 合同会

久米村才二

木山 常一

岡山 一二

堀切 盛嗣

山形 拾壺

市来 甫

指宿 栄二

園田 実満

三ツ石友三郎

松下 栄盛

鎌田 政夫

宇都 静

谷山 二夫

欠席者

塩屋園平吉

今田 安治

国師 親之



旧果樹選果場（昭和35年） 浜田友一氏提供

宮浦神社

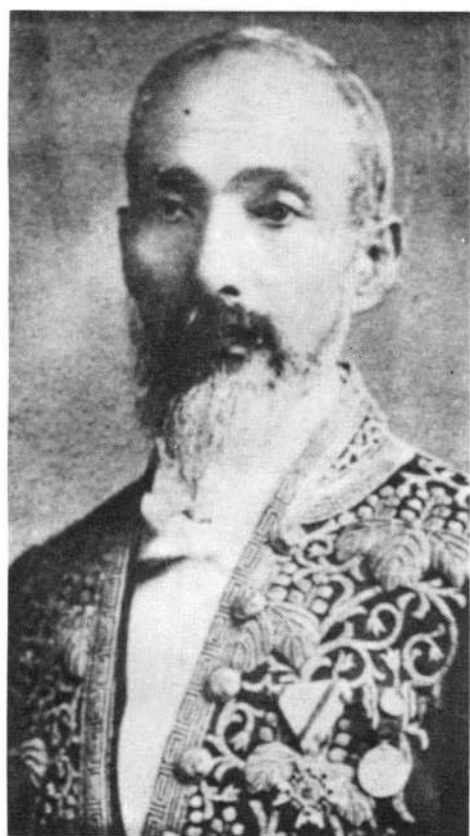


宮浦神社 三国名勝図会

大安寺



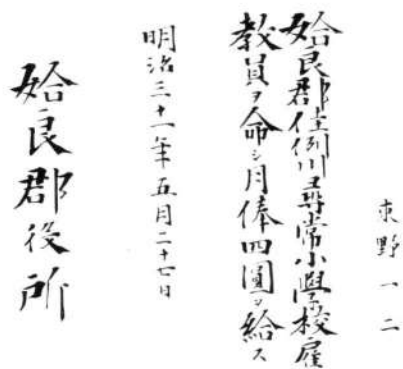
大安寺 三国名勝図会



岩崎行親肖像



中尾廉氏教員免許状（大正14年）



東野一二氏教員辞令（明治31年）

発刊のことば

福山町長 松下昌宜

福山町誌発刊にあたり、町制施行五十周年の記念誌として茲に発刊できますことを町民皆様と共に喜びにたえません。

町誌の発刊企画は昭和五十一年に始まり、丁度町制記念の意味でも感銘を深くし、且将来への良き資料となるものと思います。

内容としては全巻を通じて目次や内容が示すとおり、単なる歴史物語風のものだけでなく、学問的に統計的に又、できるだけ多くの写真を加えてその真実性で残すなど、今まで郷土の皆さんが知りたかったいろいろな古事来歴をできるだけ判りやすく説明することに努力がなされております。然し内容的にはまだ他にも歴史的事実を持ちながら、過去の資料不備により採録できなかった面も多々あったということで今後の課題として研究の必要があると思います。

編集執筆は最初から三ツ石友三郎先生を中心に、町誌

編集委員五名、協力員九名、囑託鎌田政夫先生が三カ年に亘り真剣に取り組んで頂き、六〇〇ページの町誌を完成することができました。この間困難な研究調査にも拘わらず、その調査費は不十分で委員の皆さんの御苦勞は並大抵でなかったと聞くに及び、改めて事業完遂に示された御心勞に対し深甚の敬意と感謝を捧げる次第です。また、編集関係者の現地調査や資料収集にあたり、何かと御援助と御指導を頂きました町内・町外の多くの方々に對しましても厚く御礼を申し上げます。

最後に本誌が郷土の沿革変遷を詳らかにし、また町民相互の透徹した反省と将来への進むべき方向が把握されますならば本誌発刊の目的は十分達せられるものと確信し、福山町の発展を祈念する次第です。

昭和五十三年八月三十日

発刊に寄せて

教育長 二宮 勇 男

ひと頃、駅のホームに掲示されているポスターに「デイスカバー日本」という標語が眼をひきました。これは日本美の再発見という意味だと思いますが、わたしどもが古きよき時代を見直しその美を再発見することは、こ

れからの住みよい郷土づくりをする上に大事な手がかりとなることは、古くからいわれている「温故知新」を引用するまでもないことであると思います。

わが郷土福山町も、かつてはすばらしく繁栄した歴史をもっています。時代の移り変わりと共に栄枯盛衰は自然の現象ではありますが、わたしどもが今一度郷土を見直し、将来への発展の構想を練り、われわれの力を尽くして次代の人たちにすばらしい遺産としての福山町を育てあげる義務と責任を感じます。

このような意味からと、町政施行五十周年の年にこのような郷土誌が発刊できることはまことに意義深いこと

で、これは貴重な子孫への遺産であり、この本によって郷土を更に深く認識し、愛郷の心を育て、先人の業績に接して祖先を慕う心情を培い、さらに将来への期待を与えてくれるものと思います。

郷土誌編さんという大事業に当たっていただいた編集員や直接この業務にたずさわってくださった方々のご苦労とご努力に対し、心からの敬意と感謝を捧げます。

この郷土誌を一人でも多くの町民・町出身の皆さんに読んでいただきたいと念願する次第です。

昭和五十三年八月三十日

刊行を終えて

嘱託 鎌田 政夫

町制施行五十周年を記念した郷土誌の編さんは記念事業の一つとして意義のある計画でした。

幸か不幸か私がその非才をも顧みず船頭役を務めてきました。幸いにも古文書に練達の三ツ石友三郎先生をはじめ、優秀な各委員の献身的な御協力を得て、に刊行の運びに至りました。

僅か三年という異例の短い期限のために、心の焦りだけが付き纏う毎日でした。途中いくつかの壁に突き当たりながら、ともすれば崩れがちな弱気を常に支えてくれたものは、「道義的な勇氣を持て」という伊地知大先輩のことばや町民各位から寄せられた温かい激励のことばでした。ある時は夏の藪蚊を払い除けながら、古い墓石の苔を拭いてはくずれかけた文字を拾い、ある時は文献にある所在を現地に確かめるために足を棒にして山野をかき分け、あるいは古老を頼りに話を聞くなど多くの時間を費やして資料の収集に当たりました。

郷土誌である以上一地域に偏ることなく、町全体の視

野に立ったつもりですが、それでも尚資料不足や力不足で解明できない点の多かったことをお詫びし、誤りについては今後の新しい研究と改訂に期待したいところです。今その任を終えるにあたり、先の福山郷土誌の著者故岩崎行義先生の裏面に秘められた御苦勞に想いをいたし、生前に尊い資料を提供して頂いたことに更めて敬意を表します。

又、この度の郷土誌刊行に絶大な御理解と莫大な経費を投じられた町当局の勇断に心から敬意を表するとともに、この書が広くみなさんに読まれ、町発展の一助となり、亦明日への糧ともなれば関係者一同の喜びとするところ です。ある哲人の残した「歴史を誇る者は滅び、歴史を創る者のみが栄える」の名言をかみしめながら明日の郷土の発展を祈りたい。

終りに本町郷土誌編集の重任を果たして下さった三ツ石友三郎先生の御苦勞に心から感謝申し上げます。

昭和五十三年八月三十日

目次

第二章 弥生式文化	四四
第三章 古墳時代	四五
第三編 古代	五八
第一章 大和時代	五八
第一節 神体山	五八
第二節 鎮魂への祈り	六〇
第二章 奈良時代	七六
第一節 律令国家	七六
第二節 条理制	八八
第三節 法王道鏡	一〇七
第四節 律令制の崩壊	一一五
第三章 平安時代	一二四
第一節 菅原道真の左遷	一二四
第二節 荘園と公領	一三一
第四編 中世	一五〇
第一章 鎌倉時代	一五〇
第一節 荘園と御家人	一五〇
第二節 揺れ動く荘園	一七五
発刊のことば	福山町長 松下昌宜
発刊によせて	教育長 二宮勇男
刊行を終えて	嘱託 鎌田政夫
第一編 地誌	一二三
第一章 地勢	一二三
第一節 土地	一二三
一、位置	一二三
二、地勢	一二四
三、地質	一二四
第二章 気候	一二九
第三章 生物	一三六
一、植物相	一三六
二、動物相	一三七
第二編 先史時代	一四〇
第一章 縄文式文化	一四〇

第三節	元寇の衝激波	一八四
第二章	室町時代	一八八
第一節	落日の鎮西探題	一八八
第二節	南北朝の争乱	一九〇
第五編	近世	二二五
第一章	三州統一	二二五
第一節	戦国大名の成長	二二五
第二節	戦国無惨	二三一
第二章	江戸時代	二三六
第一節	葵一色	二三六
第二節	外城の哀歎	二四九
第三節	九州一の牧場	二八〇
第四節	宝暦の治水	三〇二
第五節	菓子と黒糖	三〇四
第六節	宗教統制	三一〇
第七節	安永八年桜島大爆発	三二六
第六編	現代	三二九
第一節	独立国壊滅	三二九

第二節	産業	三四五
第三節	農業協同組合	三五二
第四節	交通・運輸	三六五
第五節	文化・民生・スポーツ	三六六
第六節	町政	三七七
第七節	福山に伝わる諸芸能	四〇四
第八節	ふるさと福山	四一〇
第七編	地区のあゆみ	四五一
第一章	佳例川地区	四五一
第一節	佳例川のあゆみ	四五一
第二節	行政区域	四五一
第三節	近世以降の佳例川	四五二
第四節	交通	四五三
第五節	宗教	四五四
第六節	孝子・先駆者	四五七
第七節	明治・大正時代の地主	四五九
第八節	佳例川小学校	四五九
第九節	衣食住	四六一

第十節 産業の発達	四六三
第二章 比曾木野地区	四七二
第一節 比曾木野のあゆみ	四七二
第三章 福沢地区	四八七
第一節 福沢村のおこり	四八七
第四章 福地地区	四九九
第一節 福地村のあゆみ	四九九
第五章 牧之原地区	五〇九
第一節 牧之原のおこり	五〇九
諸家系譜	五三七
年 表	五七二